

## 北鎌倉台峯 緑の会

(旧 北鎌倉の景観を後世に伝える基金)

# 北鎌倉だより

会報 通算46号(第2期2号)

2025年12月



<谷戸の池畔で 2025/11/16 小谷一夫幹事撮影>

## 都市緑地の供用に向けて

### 目次

■ 山崎・台峯緑地(都市緑地)の 設計について	■ 台峯の周辺 ④ 私の園芸	7
① 「基本設計」	■ 活動記録	8
② 「実施設計(素案)」	■ 余話閑話	9
	■ 「山歩き」風景から	10

## 山崎・台峯緑地(都市緑地)の設計について ①「基本設計」

2025年12月現在、鎌倉市景観部みどり公園課の手で標記緑地の実施設計策定が進められており、今年度中には確定の予定です。これは2024年度に策定された同緑地の基本設計に基づくものなので、遅ればせながら、ここではまずこの基本設計についてご報告し、記録と致します。

本年(2025年)3月24日、鎌倉市都市景観部みどり公園課(以下、「市」と略す)は標記「基本設計」(正式名称は「山崎・台峯緑地(都市緑地)基本設計策定業務委託 基本設計」だが、「基本設計」と略す。以下同様)を確定した旨を発表しました。その全文や経緯は市のWebサイトで公表されています。

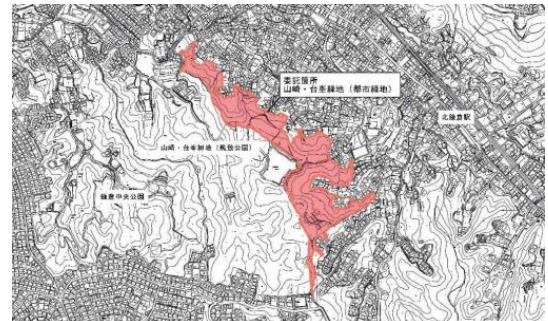
<https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/koen/seibi.html>

また、第三者機関によるアーカイブでも検索可能です。(アーカイブ登録された後出の桐山大氏に深謝) <https://web.archive.org/>

山崎・台峯緑地のうち風致公園部分はすでに2022年に全面開園していますが、「景観緑地と里山の保全ゾーン」としてかつては「保全配慮地区」とされてきた「都市緑地」部分(概ね南管理事務所から北鎌女子学園グラウンド脇を経て山崎小入口まで行く道の右側部分約8.6ha。土地は約5%が未買収のこと)は、その基本設計からして未済でした。今回確定するまでの経緯は以下の通りです。

### 1. 「基本設計素案」(以下、「素案」と記す)

市からはこの素案につき昨2024年11月15日に当会を含む関連団体向け、また同



「基本設計」より「図 1.2.1 対象範囲」

月29日には一般市民向けの説明会があつた。なお、この後者には当会「山の手入れ」によく参加、活動されて関係深い「里山MTBみうら」の桐山大氏も出席している。

素案は次のように設置物が多い内容となっていた。

### 〈素案における主な設置物など〉

危険部位に柵、階段。「老人の畑」にベンチと水飲み場(水道管を敷設)。分岐地点に標識。入口に案内板。公園灯。人家付近の崖に崩落防止のネット。尾根筋の桜の保全。

これに対して当会久保幹事が市あてにその意見を送ったが、こうした市民からの意見とそれに対する市の回答が、市民説明会の議事録とともに前述のWebサイトに掲載されている。そのうち当会意見と関連する市からの回答内容は概ね次のとおり。

### 〈素案に対して市あてに送付した当会意見と市からの【関連回答】のそれぞれ要旨〉

1 展望広場(「老人の畑」の上段部分のこと)は、昔からの景観を残すことを基本に、最小限の整備にとどめて下さい。

→【展望広場については、景観への配慮と頂いた意見を考慮し、新たな整備は行なわない。】

1) その意味で水飲み場の設置は違和感を感じざるをえません。

→【水飲みについては、景観への配慮と頂いた  
だいたい意見を考慮し、設置不要とします。】

2) ベンチは自然に溶け込むよう、一工夫必要と  
感じます。

→【ベンチについては、景観への配慮と頂いた  
意見を考慮し、設置不要とします。】

3) 階段の整備も最小限にして頂きたい。

→【急勾配やぬかるみがあり、特に歩きにくい散策路にのみ設置を検討します。階段の素材については、安全性、耐久性を考慮した上で、ボランティア団体と協議を行い、詳細を検討します。】【ベンチや階段等の新設要望を受けた際には、設置場所や材質等についてボランティア団体と協議しながら対応を検討します。】

2 グランド付近は夜間の人通りが少ないので、外灯の必要性は無いでしょう。また、LED の光がホタルなどの昆虫に悪影響を与えることが知られています。やむを得ず設置するなら、白色光より、電球の色に近い、赤や黄色光のタイプが望ましいと考えます。

→【公園灯については、生態系への配慮と頂いた  
だいたい意見を考慮し、設置不要とします。】

3 園路は、従来から地域の交通路として利用されており、一般的な緑地内の園路とは実態が異なります。一部はバイクや自動車が常時通っている区間もあるので、入口に設置されている案内板に自転車乗り入れ禁止とあるのは一考を要すると感じます。

→【供用開始前に自転車や二輪車の通行条件を整理します。今後、道路管理者やボランティア団体等と協議を行い、方針を検討していきます。】

## 2. 「基本設計(案)」(以下、「基本設計案」と記す)

こうした意見を受けて市は基本設計案作成に着手、昨2024年12月25日当会を含め

関連団体に対しその方向性につき説明を行い、意見聴取を行った。

そして、情報共有してきた方向性を基に作成した、とする基本設計案につき、年の明けた本2025年2月5日の市民説明会直前の1月29日に関連団体向けに説明があった。

市民からの「なるべく自然のままに」の声を受けて、この基本設計案は当初の素案とは全く異なった、ほとんど人工物の設置がないものとなっている。

### 〈素案からの主な修正点〉

- ① 階段や柵:ほとんど設けない
- ② サインポスト:分岐点には設けるが、老人の畠には設けない
- ③ ベンチ、水飲み場:設けない、老人の畠に現存する丸太3本はそのまま残す。またベンチは散策路上にも設けないが、今後市民から要望が出てくれば考慮する
- ④ 公園灯:設けない
- ⑤ ヤマザクラをはじめとする樹木の管理、伐採した方が良い木については、施設に金をかけない分、なるべく丁寧に実施したい。今後他の団体からの意見も取り入れ、協力も仰ぎながら実施する

こうした説明に対し、当会は次のような意見を発している。あまり手を入れないという方針には賛成するものの、安全上、自然保護上などで最低限必要なものもあると思われるためである。

### 〈基本設計案についての当会意見〉

- ① 老人の畠から崖下へは子供やボールなど落下の危険あり。以前はササなどが高く生えていて柵の用をなしていたが、現在は低く刈られて

おり危険大。柵は目立たぬ形で設置すべき。  
階段:山道と老人の畠との間の傾斜部分にはなんらかの工夫が必要。特に降りる際に転倒の例あり。

- ② ベンチ:「老人の畠」では多くの人が眺望を前に一休みする。本計画実施が5年後のことなら、それまで現存丸太がもつとは思えぬ。人工を感じさせない見た目の腰掛を設置すべき。こうした、いずれ必要とされるに違いない工作物は予め提示しておくべきではないか、また、わずかな設置物も、その材を擬木でなく自然材とするのは(本来は望ましいが)耐久性に問題があるのではないか。
- ③ サクラはテングス病の枝の除去が必要であり、またクヌギを含め株の数を減らしているが、野生では増えないので、苗から育てる必要がある。
- ④ その他:この山道は生活道路としての面があるので、そのあたりに詳しい「里山 MTB みうら」桐山大氏の意見(後記)など踏まえつつ、配慮が必要。

2月5日夕、予定どおりに市民説明会があった。数十名の参加がある中、市より説明のあと、40分ほどの質疑応答が続いた。

当会久保幹事から資料中で次の点の訂正を求める発言があり、市からは「10年ほど前に考えられたものなので、その後考えに変更があったのかもしれない、見直す」との返答がその場であった。即ち、

〈2025/2/5 市民説明会における、基本設計案に対する久保幹事意見と市からの【回答】〉(議事録では6ページ目中ほど)

「斜面樹林保全の管理」の中で、「オニバシリーコナラ群落」の管理手法例として「スダジイの優先する自然林への遷移を誘導する」とある

(配布資料「基本設計(案)」P.20)は誤りで、むしろ雑木林として守らんとするものである。

→【10年以上前のものなので、ボランティア団体の意見を伺いながら修正の要がある。】

その他市民からの発言は、市民の意見はもっと広く聞くべきといった、具体的な施策を訊くものが多かった。これに対して市からは、今後実施設計を策定する中で更に広く意見も聽けば、具体策を定めてもいくといった返答があった。

なお、この市民説明会の議事録および別途寄せられた市民からの意見とそれに対する市の回答は、前述の市 Web サイトに掲載されている。

### 3. 「基本設計」

3月になって、基本設計が確定した、との連絡が市からあり、印刷された設計を受け取りに行った。

内容は、基本設計案と全く同じのようで、久保幹事の指摘した件も訂正されていない。

当会としては、指摘してきた事項につき、市による方針に対して今後実施設計に向け、次のように対応して行くべきと思われる。

#### 〈市方針と【今後の当方対応案】〉

##### ① 階段・柵

・階段は急勾配やぬかるみがあり、特に歩きにくい散策路にのみ設置を検討します。

→【山道と老人の畠との間の傾斜部分には階段が設置されるよう、実施設計に向けて要請を継続する。設置されぬ場合は、「女坂」のような迂回路も検討する】

・柵は破損している鉄線柵がある箇所にのみ新設します

・材質は安全性、耐久性を考慮した上で、ボランティア団体と協議を行い、引き続きを検討します。

※詳細検討は実施設計で行います。

## ② 展望広場

・景観に配慮し、新たな整備は行いません。

※ベンチや階段等の新設要望を受けた際には、設置場所や材質等についてボランティア団体と協議しながら対応を検討します。

→【腰掛け用丸太については、老朽化した場合の更新など要請を継続する。なお、12月21日現在2本の新たな丸太が既に追加設置されている。崖下への転落防止柵については、むしろこの広場で子どもを遊ばせている団体の意見を訊くべきと思われるので、これを市に要請する。



＜追加された丸太＞

## ③ 維持管理

・市とボランティア団体と指定管理者の三者協議の体制づくりを検討します。

→【当会としてもかねてより懇望していた】

・三者協議では、基本構想や基本計画の考え方に基づき、具体的な維持管理等の内容について話し合います。

・使用開始前に、自転車や二輪車の通行条件を整理します。

→【「里山 MTB みうら」桐山大氏の意見(後記)が尊重されるよう支援する】

なお、今後のスケジュールは、2025年

度内に「実施設計」を確定した上、2028年度までに施設を整備、2029年5、6月に都市公園として供用開始の予定とのことです。

〈桐山大氏 意見 (編集者註: 2025/11/28 実施設計(素案)に対して、市宛に持論が提出されたもの)〉

### 自転車や自動二輪車等の通行について

2025年11月現在、山崎・台峯緑地の各出入口に設置された「入口案内サイン」にて乗車したままの通行(乗り入れ)を禁止する旨が記載されています。そして実施設計素案の『3.7 維持管理方針の検討』にて、『供用開始前に、自転車)二輪車の通行条件を整理します。』とあります。

しかしながら先日(11/20)の説明会にてみどり公園課の皆さんからの回答にもあったように、今回の実施設計対象範囲およびそれ以外の山崎・台峯緑地敷地内の散策路のうちいくつかのルート(動線)は鎌倉市の管理する市道(公道)であり、それらに関しては自転車や自動二輪車の通行を法的に完全には禁止できないものです。

山崎・台峯緑地敷地内のいくつかのルート(道)は、私自身を含めて、地元近隣在住の皆さんからすると山崎・台峯緑地が緑地として整備される以前から生活道路のひとつとして利用してきた道です。入口案内サインに「自転車や自動二輪車の乗り入れ禁止」と記載される以前は、伝聞ではありますが新聞配達や郵便配達等の人たちも利用していたと聞いています。

私自身も自転車で台峯を通行していた者ですが、同時に徒歩で通行している者でもあります。その両方の立場や観点から、台峯敷地内の自転車や自動二輪車の通行をこのまま全面禁止することには反対の立場ですが、今後自転車や自動二輪車の通行禁止が解除されたとしても全面解除ではなく、車種の限定(一定排気量以上の自動二輪車の通行制限)や、徐行速度での通行など、何らかの規制や制限は必要とも考えています。

## 山崎・台峯緑地(都市緑地)の設計について

### ②「実施設計(素案)」

表記緑地の基本設計(正式名称は「山崎・台峯緑地(都市緑地)基本設計策定業務委託 基本設計」だが、「基本設計」と略す。以下同様に「実施設計」のように記す)策定は昨2024年度内に完了し、その過程については本誌 P. 2~5でご説明しています。

引き続いて今年度は、市景観部みどり公園課(以下「市」と略す)により実施設計策定が進められているので、ここではその途中経過をご報告します。

#### 1.「実施設計(素案)」(以下、「素案」と記す)

市からはこの素案につき2025年11月12日に当会を含む関連団体向け、また同月20日には一般市民向けの説明会が開催され、また同月28日までメール等による意見募集が行われた。(その後、これら説明会や意見募集関係の案内や記述は市 Web サイト上から削除されている)

関連団体向けは「第2回保全連絡会」(かねてより当会が市による主催を要望していた台峯関係団体の定例連絡会で、10月の初回開催に続く)において説明がなされたもので、当会を含む4団体の参加、当会関係では他団体の代表の立場ながら久保幹事および当会代表として小生が出席した。

また、一般市民向け説明会には上記2名及び桐山大氏ほか当会関係者数名が出席、全体で計数十名にもなる盛会であった。

当会としては、この実施設計の対象区域(P.2 参照)は主に「山の手入れ」を行うのではなく「山歩き」を行う場所なので、その立

場での要望を基本設計段階から行ってきた経緯があり、関連団体向け説明会では引き続きこの立場で質問や要望を行った。

#### <当会発言と市からの【関連回答】

- ① 素案上展望広場(「老人の畑」のこと)につき積極的な対応が見られないが、ベンチ代りの丸太は現に3本が5本に増やされている。このあたりどういう考え方か?  
→【この実施設計は主に施設に係るものとして、どういう自然たるべきかは、保全連絡会の場で相談したい。丸太程度の設置や転落防止柵代りの植生などについては、保全連絡会に譲る。なお、同連絡会への参加希望が他団体からあれば認める方針である】
- ② 基本設計において、関連団体向け説明会の場で要望した事項は市の議事録にも記載がなく、果たして意味のあったものだろうか? →【確かに議事録には載らぬが、貴重な意見として参考にしている】

なお、一般市民向け説明会およびメール等での質疑応答については、いずれ会議録等が市により公表された後に、本誌にて説明を加える予定である。

#### 2.今後の予定

市によると、来(2026)年1月には実施設計案策定、同3月には実施設計確定がなされる予定である。

その後は、2026年度に施設整備予算要求、2027年度および2028年度に施設整備が行われ、2029年5、6月に都市公園供給開始を迎るとされている。

# 台峯の周辺 第2期②(通算④) 私の園芸

以下は、私が庭に植えたものの例です。

## ① 大麦

先日は某超大国の国家元首が国際協定や国際機関との関係見直しなどと並べてわざわざ大統領令を発し、政府施設内のストローは紙製を廃してプラスティック製とする旨を命じたとのこと。大統領が直々に、とはストローも偉くなったものだ。が、何も素材は紙やプラしかない訳でもないし、またそもそも製作せねばならぬものでもなかろう。

その少し前に、偶々台峯で飲物用に麦藁 straw のストローを持参したところ、皆に大いに珍しがられた。しかし、私は幼小時に使用した記憶があり、戦後もしばらくは家庭で普通に用いられていたのではなかろうか。藁なら元首の仰せられる「壊れたり、破裂したり、熱いと数秒で持たなくなる」ことも、また海を汚染することもない。



〈ストローと10円玉〉

持参したのは、数年前に庭で育てた大麦の、カットした藁である。立派に役だつが、昔使ったものはもっと太く、長かったような気がする。そんな具合に育てられれば、売って元手とし、いずれは藁しべ長者の如くなる算段だったのだが。

## ② ホップ

当会「山の手入れ」ではカナムグラの除去

が一仕事だ。細かなトゲがある上、生命力が強く、根から抜かぬとすぐ繁茂する厄介な存在である。汗だくで作業していると、仲間が教えてくれた、「ホップの親類なんだ」と。

それを聞いて、以前自宅空き地にホップの苗を植えたことを想い出した。キュウリかアサガオ位の心算で蔓を巻かせるワイヤを手の届く高さ位まで張ったのだが、蔓は伸びてとても足りず、1階軒下まで延長してもダメ、結局2階屋根まで延ばすと何とか納まってくれたので、ひとまずホッとした。

が、それも束の間、何やら2cm位の黒い毛虫が沢山これを伝わって上ってくる。やがて外壁は毛虫だらけに。更には室内に侵入する輩もあって、家ぢゅうがパニックに陥ってしまった。

でも、これが上手く雌花を咲かせてくれた、前述の大麦と併せてビールを作り、地元産として大々的に販売して儲けたいと思ったのだが、、、結果としては不出来な花が3つのみ。飲み屋に持参して、皆に「これがビールのもとだ」と披露、いや疲労しただけ。

## ③ カラタチバナ

赤く可愛い実をつけるカラタチバナという苗を園芸カタログで見つけ、早速注文したことがある。期待通りの実がなって喜んでいたところ、老母に叱られてしまった。

マンリョウ、センリョウはどこの庭にもよく植えるが、この木は別名をヒヤクリョウといい、ジュウリョウのヤブコウジ、イチリョウのアリドオシと同様で、庭に植えると、その家は貧乏になってしまうものらしい。

結局藁しべ長者にはなれずに、今日まで儉しい暮らしが続いている。 本田 隆史

## ★定例行事の記録 1 山の手入れ (2025/7~2025/12)

回	日	名	作業内容他
276	2025/7/19 およ び26	5 ず つ 計 10	5月に作業ができなかつたため全般に草が伸びているが、カナムグラなど引き続き排除を進めつつ、電動刈りばらい機が利用可能に。1週間後にも実施。 セイタカアワダチソウは簡単に引き抜けるが、そうでなく茎から上を刈り取った株はその後分蘖(ぶんけつ)し、根が広がってしまって引き抜けず、スコップで掘りだす必要が生じてしまう。
277	8/16	6	前月に引き続いて、カナムグラを根本から抜去など
278	9/20	6	前月に引き続いて、カナムグラを根本から抜去など
279	10/18	3	ススキとササにからみついたカナムグラの除去
280	11/15	6	ススキとササにからみついたカナムグラの除去、斜面での灌木除去
281	12/20	7	雨模様ながら、新人2名を加え、来年のクズ抜去のために、予めササや灌木の除去
計	延べ	38	名

## ★定例行事の記録 2 山歩き (2025/7~2025/12)

回	日	名	観察テーマ他
321	2025/7/20	17	夏の木陰の野草、湿地の花、ツル植物の花 道すがら一緒になった東京からの小学生母子3人は昆虫採集に訪れたようで、むしろ当会の大人が手伝い方夢中に。しかし、最後に母子は昆虫を全て放してくれた。
322	8/17	13	(前月に引き続)ツル植物の花、夏の木陰の野草、夏の木陰に咲く低木の花、昆虫が利用する花 道すがら一緒になった女性1名は、樹木に興味あり、とのことなので、久保幹事より説明を行う
323	9/21	18	この時期目立つ花、野鳥が来る木の実、老人の畠の草花、9月に咲く湿地の花、山崎小学校裏にある貴重なつる草 解散後帰路のバス通りで、バスから降りる際に転倒して膝を擦りむいた、見知らぬ老人を、里山用に携行していた水と薬で施療。
マツムシを聴く会	9/23	10	昨年の経験から開始時刻を1時間遅い19時としたところ、マツムシがよく聴こえた。 集合、解散時刻とも遅く、暗くなるので、女性参加者の多い当催しは車の利用が不可避。今回は共用(相乗り)により計2台のみで、駐車に大きな困難はなかったが。
324	10/19	12	湿地の花畠、野菊の仲間、よく目立つイネ科植物、シソ科の植物、盗られやすい植物
325	11/16	12	地味な観察、谷戸に来るカモ、山崎小学校裏の貴重な野草、晚秋のショウおよびショウが来る花 今回から28年目となる。また、11月恒例の「なださんを偲んで」の山歩きとした。
326	12/21	9	落ち葉のいろいろ、この落ち葉は何種類ある?、全体と部分、よく似た落ち葉
計	延べ	91	名

## ★その他の活動等の記録 (2025/7~2025/12)

年	月	日	事項
2025	8	8	風致保存会 60周年記念座談会：第2回 諸団体の連携、高校・大学生ボランティアの募集、2026年秋の自然保護団体によるパネル展の企画など
	10	14	市による(仮称)山崎・台峯緑地保全活動連絡会 準備会(第1回目)：今後の進め方など
	11	12	準備会(第2回目)：山崎・台峯緑地(都市緑地)実施設計(素案)の諸団体向け説明会
	11	20	市による山崎・台峯緑地(都市緑地)実施設計(素案)の一般向け説明会
	12	23	準備会(第3回)予定：実施設計(案)の諸団体向け説明会

## 余話閑話

### 1. リンドウ

地元の野草を育て広めている篤志家の方から、リンドウの苗を頂いた。この花を枯らしてしまった人はまずいないだろう、とされたホトトギスを枯らしたことのある身として、当初は辞退していたのだが、ご熱心さに打たれて庭に植えてみた。11月の下旬になって、幸い下の写真のとおり咲いてくれている。

リンドウは鎌倉市の花でもあるので、もっともっと広がってほしいと願う。



### 2. 其中庵

毎月「山歩き」した後は、魯山人ゆかりの其中庵跡の脇を通る。

ここを通る度に思い出しが、私の生家に伝わる話があって、昭和も30年代に筆者の父親がそこでご馳走にあづかったことがあるらしい。きっと誰かのお供だったのだろうと思うが、その席で談たまたま魯山人に父が「息子が勉強しなくて困る」とこぼすと、「では、うちの小僧に寄越せ」と言われた由。

年回りからは、この「息子」とは筆者ではなく、兄のことではないかと思うのだが、兄は兄で「俺ではない」と言い張る。どちらにせよ、万一小僧にされていたら、きっと一日も持た

なかつた上に、そこで受けた大変なショックが後々まで遺つことだろう。

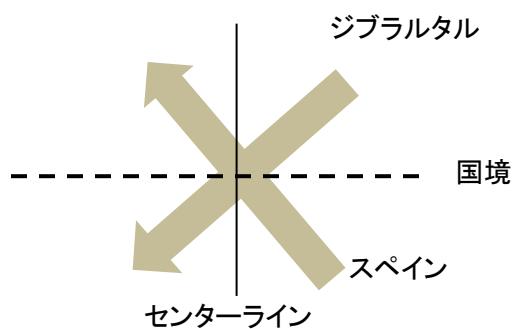
魯山人の厳しさといったら、広く知られている。だが、子供の身として当時は全く知らなかつたので、これは脅しにもならず、兄弟とも勉強に励まぬまま今日に至つてしまった。

### 3. 交通標識

最近の鎌倉は外人観光客が多い。そのこと自体は結構と思うが、自動車を運転されたりすると不安だ。数が多く複雑な日本の交通標識を、果たして理解して守ってくれるか。

半世紀も昔のことだが、スペインからジブラルタルへ車を転がして行ったことがある。スペインは他の欧州各国同様に車は右側通行であった。ところが、地続きながらジブラルタルは島国イギリスの領土だから、日本と同じに左側通行である。

この左右切り替えは運転者が怠れば逆走事故ともなるので、規則遵守が厳重に求められる。従つて国境には物々しく警官が立つていて警棒や警笛で指示したり、赤や黄の信号などの目立つ標識があつたりする、、、



かと思ひきや、路面を使って、上記のような矢印二つが大きく書かれていただけ。これで十分なのだ。(図は上から見たところ。半世紀前の記憶なので、現在については知りません)

本田 隆史

「山歩き」風景から 2025/11/16

① はじめにレクチャー 山ノ内公会堂にて



② 「なださんを偲んで」の月なのでご遺影を飾った



③ いざ出発



「北鎌倉だより」 会報 通算46号（第2期 第2号） 発行日 2025年12月21日

発行者 北鎌倉台峯 緑の会 事務局 248-0011 鎌倉市扇ガ谷3-2-12 本田方 Web サイト <http://daimine.jp>

★毎月第3日曜日に行っています。当会 WEB サイト  
<http://daimine.jp> に案内があります。是非ご参加下さい。お待ちしています。

④ 東瓜ヶ谷緑地にて植物観察



⑤ 「老人の畠」で小休止



⑥ 山崎小学校前でも観察、まもなく解散



撮影:小谷一夫幹事